

## 2025年度町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

日時 2026年2月3日(火) 18:20~19:50

場所 町田市役所 10階 10-2会議室

### 出席者

川崎 登志喜	委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
波多野 圭吾	委員(職務代理)	国土舘大学政経学部 講師
宮崎 光次	委員	桜美林大学健康福祉学群 教授
西井 義昭	委員	一般財団法人 町田市スポーツ協会 副会長
小川 由起子	委員	町田市スポーツ推進委員会 副会長
渡邊 さや香	委員	NPO 法人アスレチッククラブ町田 事務局長
毛利 良相	委員	町田商工会議所 青年部会長
小八重 眞弓	委員	市民委員
渡邊 晃庸	委員	市民委員

### 欠席者

江口 寛征	委員	社会福祉法人合掌苑 特別養護老人ホーム合掌苑桂寮施設長
長谷川 智也	委員	南中学校校長

### 事務局

文化スポーツ振興部長 老沼 正彦  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 間宮 正秋  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課事業担当係長 玉井 善也  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課施設担当係長 地寄 一敏  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長 木村 智世  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課庶務企画担当係長 山田 和彦  
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主任 積 さゆり

### 傍聴者

0名

## 議事等

1. 開会
2. 新任委員自己紹介・事務局紹介
3. 報告事項
  - (1) 2025年度スポーツに関する市民意識調査アンケート調査結果について
  - (2) 町田市スポーツ推進計画 19-28 進捗状況について
  - (3) 町田市スポーツ推進計画 19-28 後期アクションプラン進捗状況について
4. 議事
  - (1) 町田市スポーツ推進計画 19-28 および後期アクションプラン進捗状況について
5. 事務局から
6. 閉会

## <資料>

- 資料 1 スポーツ推進審議会委員名簿
- 資料 2-1 スポーツに関する市民意識調査アンケート抜粋
- 資料 2-2 スポーツに関する市民意識調査アンケート報告書
- 資料 3 町田市スポーツ推進計画 19-28 進捗状況（2025年度）
- 資料 4-1 2025年度 町田市スポーツ推進計画 19-28 後期アクションプラン進捗状況（主な実施事業）
- 資料 4-2 2025年度 町田市スポーツ推進計画 19-28 後期アクションプラン進捗状況（詳細）

## 議事要旨

1. 開会
2. 議事
  - (1) 町田市スポーツ推進計画 19-28 および後期アクションプラン進捗状況について  
事務局より配布資料について説明を行った。

会長 資料 4-1 の基本目標 1 (1) 子どものスポーツ推進の中の 1-1-1「まちとも」等と連携した放課後スポーツの推進について、具体的なアプローチができなかったため目標を達成できなかったとのことだが、どういった状況か。

事務局 地域スポーツクラブからは連携したいと手が上がっているが、「まちとも」への具体的なヒアリングまで動くことができなかった。「まちとも」の考え方ややり方等を聞き取って市が間に入り、マッチングできればと考えている。

会長 既に連携しているところを見せてもらうのもよいのではないか。

会長 (3) 高齢者のスポーツ推進の 1-3-2 温浴施設等を活用したスポーツ環境の充実について、プール祭りでは参加者数が 3,192 人とのことだが、事業数が一緒なのか、参加者数が増えたのか。

事務局 回数を増やすのではなく、内容を充実させたことにより、参加者数が増えた。

毛利委員 資料 3 の①週 1 回以上スポーツをする市民の割合と②「する」「みる」「支える」に関

わった市民の割合の数値が伸びている。2025年の活動がどう影響しているのか。FC町田ゼルビアが影響しているのであれば一時的なものかもしれない。今後も伸びるものなのか、一時的なものなのか。どういう認識でいるか。

- 事務局 FC町田ゼルビアによる影響が直接出るなら、「みる」の数値により顕著に現れると思われる。別の要因が何かしらあると考えている。  
年代別で数値を見ると、全体で上がっているが特に50・60代が多い。社会情勢として健康づくり・生きがいくりが意識されているのではないか。
- 毛利委員 2026年度もぜひ着目していきたい。
- 会長 週1回はスポーツを実施している人数は多い。注目したいのは「週3回の実施率」を次の目標に入れてはどうか、ということ。例えばスポーツを習慣化できている人たちが50%だと、スポーツのまちと言えるくらい数値はかなり高い。
- 会長 「する」「みる」「支える」いずれかの数値を引き上げるために、市が取り組んでいくべきことについてアイデアをいただきたい。  
また、資料3基本目標4の地域活性化につながるスポーツ大会の開催数も一つしかない。ここについても何かいいアイデアがあれば、ぜひご発言いただきたい。
- 毛利委員 資料4-1基本目標3(2)「みる」スポーツの環境充実に記載があるパブリックビューイングは、良い取組と考える。実施の詳細を知りたい。
- 事務局 具体的な日付は今手元にないが、FC町田ゼルビア主導で、南町田グランベリーパークで実施したほか、三輪緑山ベースのクラブハウスや飲食店での実施も含めて計85回実施した。
- 西井委員 過去シバヒロで行われたパブリックビューイングを観に行ったが、かなりたくさんの人で賑わっていた。
- 渡邊(さ)委員 シバヒロでは5月25日にパブリックビューイングを実施している。
- 会長 町田市の関わり方はどうか。
- 事務局 市の直接の関わりはないが、FC町田ゼルビアと連携して情報共有している。
- 会長 町田市はパブリックビューイング用のモニターは所有していないのか。あれば庁舎内でも実施可能だと思うが。
- 事務局 町田市では所有していない。
- 波多野委員 パブリックビューイングでの観戦も町田市内の観戦に含まれるか。
- 事務局 含まれる。
- 会長 アンケートの問3設問「あなたは、この1年間でスポーツを何らかの形でみる機会がありましたか？」の回答に具体的な内容が掲載されている。資料2-2の31ページにアンケートが掲載されているが、回答項目1は「町田市内の会場で観戦した」という記載になっている。
- 事務局 問3で市内観戦を現地での観戦のみと捉えられてしまうと、パブリックビューイングの数を取りこぼしてしまうので、今後アンケートの取り方を考え直す必要があると考える。
- 波多野委員 回答者がどんなイメージで回答するかによってだいが漏れてしまう。この記載だとパブリックビューイングの観戦者の数を取りこぼしてしまうと考える。せっかくの素晴

らしい取組なので、もったいないと思う。

小川委員 「まちとも」での活動として、忠生第三小学校などでモルックやボッチャを行っている。小学校からの依頼で1年生を対象に体育の授業でボッチャの試合をしたり、高齢者支援センターでボッチャの指導をしたりしている。まちだサポーターズでボッチャ大会を開催したとも聞いて、感心した。ボッチャは小学校1年生でも盛り上がることができ、高齢者も障がい者も参加できる。町田市内で大会ができたらと去年から思っている。市内で開催されたら様々な人がチームを組んで、分け隔てなく参加できると思う。

会長 ボッチャの大規模な大会はどのようなものがあるか。

小川委員 東京都市町村ボッチャ大会がある。各市から予選を勝ち抜いた上位2チームが出場できる。去年はサン町田旭町体育館で開催された。

事務局 予選を経て出場してもらおうのが望ましいので、多くのチームに参加してもらいたい。大会があれば審判や指導者が必要となり、育成にも繋がるが、町田市についてはまだ難しい状況。

小川委員 障がい者のスポーツ教室にも取り組んでいるが、自閉症の子がボッチャを体験してみたところ、とても上手だった。町田市でチームを組んで出場できればいいと思う。色々な場所で行っているのを、市立総合体育館などで集約して大々的にできればいいと思う。また、ボッチャの協会が町田市にない。ボッチャはパラリンピックの種目にもなっているので、もっと後押ししてもらえるといいのではないか。

会長 インクルーシブな運動会が町田市で開催されれば盛り上がるのではないか。商工会議所の支援や、FC町田ゼルビアとの連携など、協力し合えることはあると思う。

渡邊(さ)委員 出前サッカー教室を委託事業として市から受けているが、今回の報告内容には入ってこないという認識でよいか。FC町田ゼルビアの目標としては市内小学校全校、幼稚園・保育園全園を回りたいと思っており、毎年1,000人以上の子どもたちにサッカーを出前で教えたり、ダンスやタッチラグビーも教えたりしている。出前サッカー教室は報告事項内の数値に反映しているか。

会長 何年くらい事業としては行っているか。

渡邊(さ)委員 事業としてはクラブを設立してからすぐ実施しているので、かれこれ10年以上。町田市の支援がいつからかは定かではないが、委託事業として実施している部分はある。出前サッカー教室を実績として取り込めば、ホームタウンチームとの連携や市内の子どもたちのスポーツ実施のところで数値が上がると考えたが、どうか。

事務局 実績について、これまで反映していなかったのが今後は検討していく。

渡邊(さ)委員 連携していただいているので、ぜひ数値に盛り込んでほしい。

その他にできそうなこととして、アスレチッククラブ町田は総合型地域スポーツクラブとして活動している。サッカー中心に文化系含めて7、8種目、多世代を対象に色々取り組んでいる。近年統廃合による廃校が増えていて、中学生の部活動地域連携の問題もあるが、場所と指導員さえ揃えば、地域の方と一緒に活動できる。総合型地域スポーツクラブがハブとなってスポーツをする機会を提供し、地域の方が指導者とし

で支え、運営についてはまちだサポーターズなどボランティアが支えて協力していれば、地域も盛り上がり中学生も部活動に困らなくなる。色々なことができるのではないかと常日頃から考えている。スポーツを振興して地域を盛り上げていくという点でぜひ現実になればと思う。

事務局 部活動の地域連携について、町田市の主な流れは2パターンある。一つはモデル地区として南成瀬中学校とつくし野中学校が独自に運営・活動をしているもの。もう一つは今後進めていく形だが、拠点校方式で、例えばバレーボールが強い学校はそこを拠点として生徒を集めて活動する、といったように、種目ごとにいくつかの拠点を決めて運営を進めていくことを考えている。

また、現場の先生の意見を聞くと指導者を探すのに苦労している様子だった。渡邊さや香委員から話があったとおり、地域スポーツクラブにはプロが多くいるので、町田市が間を取り持ってマッチングを進めていければいいと思う。

渡邊(さ)委員 南成瀬中学校が組織している一般社団法人 NANNARU UNITED (ナンナルユナイテッド)には理事として参加させてもらっており、情報共有はしている。

会長 町田のスタイルが確立して、実現することを期待したい。

小八重委員 まちだサポーターズの設立初期から居るメンバーの高齢化に伴い、会員数も減少している。その危機を打破するため、来年度は11月に開催されるまちカフェなどでもっと会員募集をしていきたい。市民の方との交流もより積極的にしていきたい。

また、今年の6月と9月に知的障がい者のオリンピックであるスペシャルオリンピックの全国大会が開催される。今後、世界大会もある。町田市でもそういった方に向けての育成に努めてみてはどうか。競技はバスケットボールやテニス、陸上のほか、個人競技もあるので色々なパターンがある。ポッチャもある。町田市で選手を育成していくと面白いのではないかな。

渡邊(晃)委員 野津田公園で壁打ちテニスをしていると、様々な団体がやって来て施設を使っているのを見かける。資料3基本目標4「市のスポーツ情報をきっかけにスポーツに関わった」という回答の割合の向上を目標に掲げているが、どこで何が行われているか、もっと情報が出ると、市民がやってみよう、見てみようと思うのではないかな。

広報まちだを見て情報を得ている人が多いという数値が出ているが、もっと様々な場所で様々な種目のスポーツをやっていると思う。関心を持って探してみると、テニスも頻繁に大会が開催されていたり、高齢者や子どもが教室等で楽しんだりしている。それ以外の種目のスポーツもあると思う。もっと宣伝して、市民が参加できるような情報発信をしてもらえるといい。市民が色々なスポーツに参加できると、より一層スポーツでまちがひとつになると思う。様々な形で情報発信をしてもらえると、子どもから高齢者までスポーツができるまちになると思う。

会長 どうやって情報を届けるかは本当に難しい。いつまで経っても広報で情報を得ている人が最多という結果が出ている。スマートフォンは皆使うが、好きな情報しか取りに行かない。本人が求めている情報が入ってこない。町田市全体として広報の作戦が必要だと思う。ぜひ知恵を絞ってもらいたい。

- 波多野委員 笹川スポーツ財団というスポーツ政策専門のシンクタンクがスポーツライフデータやスポーツ習慣を調査している。最近分析の中で出てきているのが、新型コロナウイルス感染症拡大以降、子どもと一緒に遊ぶ相手が、仲間・友人から親に変わってきている動きがみられるというもの。これはこの市民意識調査アンケートで言う働き盛り・子育て世代とマッチしている。ここをどう施策に活かしていくかが大事ではないか。働き盛り・子育て世代にどうアプローチするのがポイントになると思う。
- もう一つはボッチャの大会。資料 3 基本目標 4 地域活性化につながるスポーツ大会のところで、ラグビーのワールドカップなどの大規模な大会のイメージがあると思うが、町田市単独では開催が難しいので、年代別の代表であるとか、女子サッカーに目を向けるとか、そういった多様なところに着目してもいいと思う。大会開催でボランティアの活動機会が増えるなどポジティブな効果も見込まれる。この辺り引き続き検討してもらいたい。
- 宮崎委員 皆様のアイデアが多彩で、本当に色々あるなと思った。例えば地域スポーツクラブの活動でも、「こういったことがあればもっとできるのに」という思いがあって、ではそれをどうマッチングするかという問題を突き詰めていくと、市民がもっと「やってみよう」「見てみよう」「支えてみよう」と、積極的にスポーツに参加しようと思ってくれるのではないか。また、情報発信についてもどうキャッチしてもらおうかなどを考えていけるとよいと思う。
- 西井委員 自分もアンケートを回答してみたが、難しい。資料 2-2 の 30 ページを見て、自らの意思を持って身体を動かすこともスポーツも入るということ、スポーツは競技スポーツだけではなく、一駅分歩くこと等もスポーツに入るのかと驚いた。非常によくできたアンケートだが、より分かりやすくポイントを上げてくれれば良いと思う。
- 資料 4-1 基本目標 4 スポーツを通じたまちづくり (1) スポーツ情報の発信について、目標値を大幅に超えた実績を上げているが、確かに市立総合体育館でも様々なイベントを行っているが、中々知る機会がない。スポーツ協会が発行している小冊子に多数のイベント情報を載せているが、どのように発信したらいいか、PR の仕方について協会内でも話をしている。
- 資料 4-2 基本目標 2 スポーツにかかわる人材と組織の充実に関して、スポーツ協会に加盟した団体は 38 団体に増えた。剣道や弓道など様々な種目があるが、指導員がどのような動きをしているか、どう市に関わっているかが見えない。スポーツを行う場には必ず先生やコーチが居る。スポーツ振興課と教育委員会が連携して指導者を団体から送り出し、学校の負担を軽くしてスポーツを広げていくことも考えられたらいいと思う。
- また、指導員はどういった資格を得て指導しているのか、アンケートを取ろうと思う。
- 会長 スポーツ協会でも動きがあるということか。
- 西井委員 個別に指導できる人はいないかという相談は来る。協会等に登録せずに個人で活動している方もいる。組織としてまとまった方がいいのではないかと考えている。
- 会長 町田市としても有資格指導者データベースの完成を目指して取り組んでももらいたい。

会長            まだまだ町田市はできることがあると思う。  
                 インクルーシブな大会はまだメッカがない。車いすバドミントンの取り組みもしている  
                 ので、アイデア次第では町田市が第一線になる可能性もあるのではないか。

### 3. 事務局から

事務局から今後について説明を行った。

### 4. 閉会

以上